

# 「朱子語類」における否定副詞“没”

—— “没” が前置される成分について ——

渡 部 洋

## 一 前 言

先人の研究により動作の未完了を表す〈没〉が元明期に見られることが分かっている。<sup>(1)</sup>しかし元明期になって〈没〉が突然変化し未完了を表すようになったとは当然のことながら考えにくい。ならば〈没〉は如何に変化し元明期に未完了を表すようになったのか。当時の〈没〉の変化を解明するには、宋元明各時代の資料に出てくる〈没〉及びそれを前置する成分に焦点をあてて調査研究し、〈没〉の宋元期から元明期への微妙な変化を明白にする必要がある。ここではその調査研究の試みの1つとして当時の口語が色濃く反映されている「朱子語類」(以下「語類」と略称)<sup>(2)</sup>の中に出てくる〈没〉とそれを前置する成分について分類調査し、〈没〉とその成分との関係や特徴について探って見たいと思う。尚、例文下の( )<sup>(3)</sup>の中には中華書局「朱子語類」のページ数と記録者の名前を明記した。

## 二 〈没〉1と〈没〉2

「語類」では動作の未完了を表す場合〈未〉〈未曾〉〈不曾〉が用いられており、特に〈不曾〉の使用頻度が非常に高い。未完了を表す〈没〉は無く、基本的には〈没〉は〈有〉の反義語として用いられている。但し、〈没奈何〉や〈没把鼻〉等の熟語化したものを除き、〈没〉の後ろに置かれる成分についてみると大まかに2種類に分けることができる。1つは存在否定、つまり〈没人〉“人がいない”のように用いられる〈没〉(以下〈没〉1と記す)であり、1つは現代語の〈不〉のように動詞や形容詞等を否定する〈没〉(以下〈没〉2と記す)である。

## 2 (渡部)

〈没〉1の場合、後に置かれる成分を見ると、名詞、或いは〈处〉で体言化された形のものが多い。例えば〈没安顿处〉〈没理会处〉〈没是处〉〈没讨头处〉〈没下手商量处〉等がこれにあたる。

某所以常道，他下面有人，自家上面没人。

(201 叶贺孙)

然无那天气地质，则此理没安顿处。

(66 程端蒙)

若要强安排，便须百端撰合，都没是处。

(1469 黄榘)

若未做工夫，只说得一个为学大端，他日又如何得商量，尝见一般朋友，见事便奋发要议论，胡乱将经书及古人作议论，看来是没意思。又有一般全不做工夫底，便没下手商量处。

(2844 記録者不明)

守屋宏則氏は「水滸伝」に関してこの〈没・・・处〉の形が〈无・・・处〉よりも非常に多いことを指摘され、〈没〉と〈处〉の相性のよさを述べられている。<sup>(4)</sup>しかし「語類」の中では〈无・・・处〉が〈没・・・处〉よりも多く、「水滸伝」とは逆の状況となっている。これは両資料の成立年代の違いもさることながら、「語類」が教養人の文白混淆の言葉が中心であるのに対し、「水滸伝」が一般大衆の話し言葉を中心としていることから生ずる違いと思われる。「語類」とほぼ同時代の資料「劉知遠諸宮調」は大衆の話し言葉を色濃く反映した資料であるが、〈没〉と〈无〉の使用頻度にさほど大きな差はない。<sup>(5)</sup>ただ〈没〉1と〈没〉2を比べると、「語類」「劉知遠諸宮調」共に〈没〉1の使用頻度が〈没〉2よりもかなり高くなっている。

### 三 〈没〉2を前置する語彙

〈没〉は元明期から動作の未完了を表す否定詞として登場するが、その特徴を明らかにしていくためには、まず〈没〉を前置する名詞成分以外の語彙に注目する必要がある。「語類」中〈没〉2が修飾する語彙には〈诧异〉〈分別〉〈分晓〉〈检束〉〈紧要〉〈要紧〉〈理会〉〈思量〉等があった。ここではそれらの語彙を取り上げその特徴について見てみたいと思う。

〈诧异〉:〈奇妙な、いぶかしげな、特異な〉という意味の形容詞で「語類」の中では次の例が見られた。

如说道理，这自是世上公共底物事，合当大家说出来。世上自有一般人，自恁地吝惜，不肯说与人。这意思是如何，他只怕人都识了，却没诧异，所以吝惜在此。

(937 叶贺孙)

〈分別〉:〈区別する、見分ける、違い〉等の意味を持つ、動詞と名詞両方の用法を有する語彙である。「語類」中〈没〉を前置したものは1例あり、それは動詞としての用法であった。

圣贤说话自有分別，何尝如此 侗不分晓。[名詞]

(411 深憫)

问事亲从兄有何分別，曰事亲有爱底意思，事兄有严底意思。[名詞]

(1333 甘节)

令人不是不理会道理，只是不肯子细，只守著自底便了，是是非非，一向都没分別。[動詞]

(1004 叶贺孙)

〈分明〉:〈あきらかである、はっきりしている〉という意味の形容詞である。〈没〉を前置したものは1例あった。

曰眼前凡所应接底都是物。事事都有个极至之理，便要知得到，若知不到，便都没分明。

(282 叶贺孙)

〈分晓〉:〈あきらかである、明白な、分かっている〉等の意味を持つ形容詞である。比較的口語色の強い語彙なのか〈没〉を前置したものは6例あった。

人自从生时受天地许多气，自恁地周足。只缘少间见得没分晓，渐渐衰飒了。

(1248 叶贺孙)

若只管说气便是性，性便是气，更没分晓矣。

(1388 深憫)

贺孙云如陈鍼子送女，先配后祖一断，更是没分晓，古者那曾有这般礼数？

(1555 叶贺孙)

吝者，喑鸣说不出，心下不足，没分晓，然未至大过，故曰小疵。

(1888 黄榼)

如用人之智去其诈，用人之勇去其暴，这两句意分晓。惟是用人之仁去其贪一句没分晓。

(2487 叶贺孙)

汪丈为人醇厚，赵张子韶辈不得，又有许多记问经史典故，又自有许多鹞突突问义理，又恋著鹞突底禅。群疑塞胸，都没分晓，不自反躬穷究只管上求下告，问他讨禅，被他恣意相薄。

(2973 吴必大)

〈检束〉〈拘检〉：辞源によれば〈拘检〉の意味は〈检束〉であり、〈检束〉は〈言行を慎み性情をひきしめて放縱しない〉という意味を表すとあった。これらの語彙は性質状態を表しており、形容詞として見る事ができる。「語類」中〈没〉を前置したものはそれぞれ1例あった。

但庄子说得怪诞。但他是与这般人相投，都自恁地没检束。

(808 叶贺孙)

庄周曾做秀才，书都读来，所以他说话都说得也是。但不合没拘检，便凡百了。

(2988 吕焘)

〈紧要〉〈要紧〉：どちらも〈重要な、要の〉等の意味で使われる形容詞である。両者の用法、意味に差異はなく、恐らくは、〈紧〉〈要〉の位置がまだ固定化されていなかったものと思われる。ただ量の多さや用法から見て否定詞＋〈紧要〉／〈要紧〉はかなり熟語化した形なのである。「語類」では〈没要紧〉に比べ〈没紧要〉の数が圧倒的に多く、〈没要紧〉7例に対し〈没紧要〉は42例あった。ここでは

〈没要紧〉7例と〈没紧要〉42例中7例を挙げる。

某自十五六时至二十岁，史书都不要看，但觉得闲是闲非没要紧，不难理会。大率才看得此等文字有味，毕竟粗心了。

(2616 藩履孙)

若不尽得此理，只是空生空死，空具许多形骸，空受许多道理，空吃了世间人饭。见得道理若是，世上许多闲物事都没要紧，要做甚么？

(3117 叶贺孙)

如没要紧底语言文字，漫与他识在，不识也没要紧。

(898 叶贺孙)

如今人不曾竭尽心力，只见得三两分了，便草草揭过，少间只是鹘突无理会，枉著日月，依旧似不曾读相似。只如韩退之老苏作文章，本自没要紧事。

(2613 钱木之)

如至没要紧职事，亦没人甚多，不知何做。

(1371 深僊)

令吾人学问，是大小大事。却全悠悠若存若亡，更不著紧用力，反不如他人做没要紧底事，可谓倒置，诸公切宜勉之。

(2924 潘时举)

看经书与看史不同，史是皮外物事，没紧要，可以记问人。

(189 深僊)

令人居乡，只见居乡利害，居官，只见居官利害，全不见道理。他见得道理大小大了，见那居官利害，都没紧要，仕与不仕何害。

(715 陈植)

曰大节是了，小小不能皆然，亦没紧要。

(2272 陈淳)

这至，只是道之尽处，所不知不能，没紧要底事。

(295 叶寅)

又曰颜子着力做将去，如克己复礼，非礼勿视听言动，在它人看见是没紧要言语，它做出来多少大一件事。

(1157 陈淳)

若无这勇，则虽有仁、知，少间亦恐会放倒了。所以中庸说仁、知、勇三者。

勇，本是个没紧要底物事。然仁，知不是勇，则做不到头，半途而废。

(985 吕焘)

人多是将言语做没紧要，容易说出来。

(1713 深間)

〈没紧要〉42 例の内、16 例が深間のものであるのに対し、〈没要紧〉7 例においては深間のものは僅か 1 例のみとなっている。〈没要紧〉は深間には好まれては使われなかったのかも知れない。

〈理会〉：〈没〉と〈理会〉は相性がいいのか 61 例の〈没理会〉が見られた。

「語類」における〈理会〉の使用頻度が高いとはいえ数としては少ない。この〈理会〉の意味について田中謙二氏「朱子語類外任篇訳註」には、くしまつする・分別する。宋・元期のこの語の用法はかなり幅がひろい。〉とあり、その意味解釈としてく手をうつ・かまいつける・処理する・扱う<sup>(7)</sup>等が出ている。中国文明選第三卷「朱子集」ではく会得する・とりくむ<sup>(8)</sup>等の意で訳されてあった。こうした解釈や「語類」中の〈理会〉の例等から見て〈理会〉の意味は大きく二方向に分けて考えることができる。一つはくかまう とりくむ〉の方向であり、一つはく分別する 理解する〉の方向である。ここではく没〉を前置した例として 2 例を挙げる。第 1 例はくかまう〉の否定形でくかまわない〉という意味、第 2 例はく理解する〉の否定形でくわからない〉という意味である。

如要敬则碍和，要仁则碍义，要刚则碍柔。这里只看得一个，更著两个不得。为敬，便一向拘拘，为和，便一向放肆，没理会。

(2451 徐寓)

止缘初间不理会到十分，少刻便没理会那个是白，那个是皂，那个是酸，那个是咸。

(378 叶贺孙)

「語類」の中に〈理会〉の名詞用法は見つからなかったが、〈没理会〉の前に数量詞が置かれて名詞のように使用されている例や〈没理没会〉のように

4音節化した例等が見られた。〈没理会〉はかなり熟語化されていたものと思われる。

语孟开陈许多大本原，多少的实可行，反以为恐流于空虚，却把左传做实，要人看。殊不知少间自都无主张，只见许多神头鬼面，一场没理会，此乃是大不实也。

(2896 叶贺孙)

公今未见得本意是如何，却将一两句好言语，裹了一重没理会在里面，此是读书之大病。

(1176 叶贺孙)

令人大抵有贪多之病，初来只是一个小没理会，下稍成一个大没理会。

(2424 徐寓)

曰不敬于事，没理没会，虽有号令，何以取信于人。

(496 董铢)

〈思量〉：〈考える 考え〉等の意味で動詞と名詞の用法がある。〈没思量〉は2例あり1つには“池州刊本に作る”とあった。

问孟子道性善，不曾说气稟。曰事孟子不曾思量到这里，但说本性善，失却这一节。[動詞]

(1307 林夔孙)

恰如某病后要思量白日上升，如何得，今且医得无事时，已是好了。[動詞]

(2220 黄義剛)

曰不须问他从初时，只今便是一体。若必用从初说起，则煞费思量矣。[名詞]

(852 深憫)

问延平欲于未发之前观其气象，此与杨氏体验于未发之前者，异同如何。曰这个亦有些病。那体验字是有个思量了，便是已发。若观时恁著意看，便也是已发。[名詞]

(2604 陈淳)

康节所谓心者，性之浮郭是也。包裹底是心，发出不同底是性。心是个没思量底，只会生。[動詞]

(91 黄义剛)

心是个发出底，池本作心似个没思量底，他只会生。[動詞]

(2483 林夔孙)

#### 四 結 語

「語類」中〈没〉が前置された成分を品詞別に分けると次のようになる。

I 没+名詞・名詞性成分(没意思, 没安顿处……)

II 没+形容詞(没诧异 没分明 没分晓 没检束 没拘检 没紧要 没要紧)

III 没+動詞(没分别 没理会 没思量)

I が数の上で最も多く、最も少ないのがⅢであった。これは本来〈没〉が〈无〉の代替としての役割と果たすものであったからであり、〈不〉の意味であるⅡやⅢは特殊なものと言えるのかもしれない。Ⅱの場合、〈没分晓〉〈没紧要〉〈没要紧〉が比較的多く、特に〈没紧要〉が42個とかなり多かった。このように〈没〉と〈紧要〉の相性がよいのは〈紧要〉が非常に口語的な語彙であったためと思われる。Ⅲの場合は〈没理会〉を除き、〈分别〉〈思量〉それぞれに動詞用法と名詞用法があった。また意味的に〈没〉1に属するものであるためここでは挙げなかったが〈没〉が前置された〈倒断<sup>(9)</sup>〉という語彙も名詞と動詞の用法を持っていた。〈没〉2の場合動詞と名詞の用法を合わせ持つ口語的な語彙に前置されやすいものと思われる。〈理会〉については「語類」の中に名詞用法は確認できなかったが、元曲や後の章回小説において〈方法・考え〉等の意味で〈理会〉が使用されていることを考えると前述のような動詞と名詞の用法を合わせ持つ語彙であったという可能性も否定できない<sup>(10)</sup>。他の一般動詞〈读〉〈看〉〈说〉〈有〉等の語彙については、「語類」中数多く使用されているにもかかわらず、それらの語彙の否定形に〈没〉は1例も用いられていない。特に〈有〉の場合〈无有〉〈不有〉がかなり多く見られるのに対し、〈无〉の代替役としての〈没〉を使った〈没有〉は確認できなかった。同時代の資料「劉知遠諸宮調」においてもこの状況は変わらない。しかし、元明期の資料にはこの〈没有〉を見ることができ、ここに〈没〉の微妙な変化を見ることができる。つまり「語類」の時代〈没〉は主に〈无〉の代替役として名詞成分を否定する場合に用いられていたが、次第に形容詞や動詞の語彙をも否定するようになって〈没〉2の形が見られるようになり、さらに〈理会〉のような一部の特殊な動詞を除き、動詞、名詞用法を合わせ持つ語彙に



限られていた〈没〉の否定対象がその後元明期になって垣根が消失していき、〈没〉が〈有〉のような一般動詞の否定詞としても使用されるようになったのではないだろうか。

〈没〉は宋代と元明期の間で意味の上でも用法の上でもある変化を見せる。如何に変化していったかを明らかにするには、今後〈没〉が前置される語彙の性質を丹念に調査する必要がある。今回は1つの資料のみを調査対象として大まかな分析を試みただけであり、謂わば長い路程の一步に過ぎず、内容的にも不十分さは否めないが、これを機に他の資料も使って今後も調査を継続して行きたいと考えている。尚、この拙論の後に「語類」中〈没〉が前置されている語句の索引を載せることにした。配列は併音の頭文字のアルファベット順とし、語句の( )には中華書局王星賢點校「朱子語類」のページ数を記した。

#### 注

- (1) 太田辰夫「中国語歴史文法」(1985年 江南書院) 302頁  
香坂順一「白話語彙の研究」(1983年 光生館) 257頁・258頁
- (2) 基本的には王星賢點校の「朱子語類」(理学叢書 中華書局 1986年)を使用し抽出した語句や例文については明成化九年刊本の「朱子語類」で確認する方法をとった。
- (3) 記録者については田中謙二「朱門弟子師事年攷」(東方學報)第四八冊 1975年)を参照。
- (4) 守屋宏則「『水滸』に見られる〈没〉」(中国俗文学研究第七号 1989年) 58頁
- (5) 拙編「劉知遠諸宮調語彙索引」(好文出版 1996年)を参照。
- (6) 前掲(1)
- (7) 田中謙二「朱子語類外任篇訳注」(汲古選書14 1994年) 12頁・50頁
- (8) 三浦國雄「朱子集」(中国文明選3 朝日新聞社 1976年) 6頁・7頁に【「理会」は『語類』にふんだんに現れる俗語。邦語に対応する語を見出し難く、“理解する”といっても単に頭だけでなく、身体ごと理解するニュアンスがあり、“問題として取り組む”という意味がこの語の根幹にあるように思われる。】とある。
- (9) 〈倒断〉は〈判断する、決断する、計画 終わり〉等の意味を表し動詞の用法と名詞の用法を持っている。下記2例の内〈倒断不下〉は〈判断しきれない〉という意味を表し、〈没倒断〉は〈終わりがない〉という意味であると思われる。  
旧时看此句甚费思量，有数样说，今所留二说也倒断不下。(1488 深間)  
若小著心，如何承载得起。弘了却要殺。弘则都包得在里面了，不成只恁地宽广。里面又要分别是非，有规矩，始得。若只恁地弘，便没倒断了。(927 深間)

「朱子集」123頁にも〈倒断〉は〈判断する、決断する 計画〉等の意味を表すと記載されており、〈二者須有个思量倒断始得〉の〈倒断〉は、疑念を残しながらも〈計画〉の意味として理解されている。

- ⑩ 〈没办法〉という意味で〈没理会〉が使われる例は「元曲」や「水滸伝」に見られる。

只等孩儿到来，自有个理会。

(「元曲選」第四冊 中華書局 1989年 1490頁 紀君祥 趙氏孤兒大報讐雜劇第四折)

梁中书道，尚有四五十日早晚摧并礼物完足，那时选择去人未迟，夫人不必挂心、世杰自有理会。

(「明容與堂刻水滸伝」一 上海人民出版社 1975年 第十三回)

- (11) 前掲(1)

## 否定詞“没”を前置する語句索引

### A

安顿处

没安顿处 (66)

也没安顿处 (650) (834)

亦没安顿处 (302) (2670)

自燃没安顿处 (1290)

安排

便是没安排周遮 (2686)

盖没安排处 (2349)

### B

巴鼻

没巴鼻 (2163)

(不成) 没巴鼻打坏了 (1284)

(都是) 没巴鼻恁地 (1800)

没巴鼻生底 (224)

也没巴鼻 (3185)

～巴～鼻

没巴没鼻 (2892)

卜筮中

一向没卜筮中 (1627)

### C

诧异

却没诧异 (937)

齿

没齿无怨言 (1123)

出气处

没出气处 (3259)

### D

倒断

便没倒断了 (927)

道理

没道理 (880) (1245) (3018)

更没道理 (2052)

顿处

也没顿处 (2835)

顿放处

便没顿放处 (866)

都自恁地颠颠倒倒没顿放处 (190)

没顿放处 (2491)

自没顿放处 (130)

E

耳

都没耳 (1535)

F

分别

一向都没分别 (1004)

分明

(便都) 没分明 (282)

分晓

没分晓 (1888) (2487)

(见得) 没分晓 (1248)

都没分晓 (2973)

更没分晓矣 (1388)

更是没分晓 (1555)

G

干涉

没干涉矣 (336)

个～

(只是) 没个顿放处 (2252)

没个是处 (2434)

都没个遮拦 (1894)

勾当

(闲) 没勾当处 (284)

H

合杀

便没合杀 (3314)

弄得来没合杀 (2645)

又弄得来没合杀 (1320)

只恐孤军没合杀 (2821)

转见支离没合杀了 (2820)

便没合杀 (3314)

J

检束

都自恁地没检束 (808)

见识

没见识土人 (3127)

紧要

没紧要 (189)

便自没紧要 (246)

都没紧要 (715) (2513)

皆没紧要 (978) (1158)

一似没紧要 (444)

亦没紧要 (2272)

有些没紧要 (1014)

又似没紧要相似 (2764)

只似没紧要 (444)

自看得没紧要 (715)

做没紧要 (1713)

紧要～

没紧要言语 (1157)

没紧要文字 (273)

没紧要物事 (1497) (1561)

(一二) 没紧要字之间 (1592)

紧要底 (～)

没紧要底 (33) (295) (353)

(那) 没紧要底 (979)

没紧要底工夫 (190)

没紧要底话 (979)

没紧要底人 (352) (353)  
 没紧要底事 (295) (937) (1132) (2924)  
 (2572) (3210)  
 没紧要底物事 (985) (1497) (2931)  
 小没紧要底物事 (2224)  
 没紧要底药 (3098)  
 没紧要底意思 (328)

## 紧要处

没紧要处 (1556) (2612)  
 说得没紧要处 (439)  
 (如) 小可没紧要处 (1503)

## 拘检

(不合) 没拘检 (2988)

## 举止

便没举止了 (2856)

## K

## 口咆事

没口咆事 (3086)

## L

## 来由

(那) 没来由底两句 (2072)

## 理会

没理会 (1370) (1396) (2236) (2451)  
 (2503) (2667) (2480) (2872)  
 (3036) (3100) (3265)

没理会了 (476) (2828)

(搅得) 没理会了 (708)

(则晦得) 没理会了 (1827)

(这是) 没理会时节 (1798)

便没理会 (1672) (2162) (2960)

便没理会那个是白, 那个是皂, 那个是酸,  
 那个是鹹 (378)

都没理会 (33) (86) (574) (1387) (2318)  
 (2441) (2700) (3071) (3223)

(推得) 都没理会 (2239)  
 都没理会了 (1141) (2295) (3008)  
 都颠颠倒倒没理会 (2893)  
 都鹑突没理会了 (988)  
 更没理会 (560) (2182) (2960) (3144)  
 皆没理会 (2239)  
 溟滓没理会 (1814)  
 悞悞没理会 (3342)  
 全然没理会 (2188)  
 却没理会 (2278)  
 也没理会 (1069)  
 也没理会了 (3028)  
 也只没理会 (1058)  
 一场没理会 (2896)  
 (都搅得) 一场没理会 (2760)  
 (裹了) 一重没理会在里面 (1176)  
 (成) 一个大没理会 (2424)  
 (滚得) 一齐没理会了 (737)  
 一齐都没理会了 (396)  
 一齐都没理会了 (2970)  
 (恰似) 一向没理会 (1184)  
 尤没理会 (2303)  
 最没理会 (2700)  
 又都没理会 (2964)  
 又没理会了 (458)  
 则都打个没理会去 (1085)  
 做个鹑突没理会底人 (1327)

## ～理～会

没理没会 (496)

## 理会处

没理会处 (2385) (2880) (3036)

(也说得) 没理会处 (2674)

便没理会处 (150)

便都没理会处了 (1660)

便是没理会处 (2182)

更没理会处 (1591)

一味颠蹙没理会处 (2619)

了

都没了 (240) (412) (1783) (2252) (2491)  
(2811)

(和这里) 也没了 (1099)

没了东北一载 (1731)

(便) 没了礼之根 (1444)

没了前一载 (1731)

(便) 没了仁之根 (1444)

(便) 没了义之根 (1444)

没了这人道 (1761)

(便是) 没了这事 (504)

(便) 没了智之根 (1444)

了期

没了期 (3295)

N

那～

没那本领 (877)

没那不间不界底事 (888)

(又怕) 没那上面一载 (210)

(便是) 没那相近了 (1178)

奈何

没奈何 (803) (3172) (2672)

便都没奈何 (260)

便是没奈何了 (233)

都没奈何 (2451)

更没奈何 (2149)

也没奈何 (248)

自没奈何 (2150)

奈何～

没奈何底心 (3036)

没奈何如此 (1119)

也没奈何与他 (2181)

奈何他

没奈何他 (190)

则没奈何他 (2789)

奈他何

没奈他何 (964) (3011)

更没奈他何 (3172)

犹没奈他何 (178)

自是没奈他何 (3172)

恁地～

没恁地差异 (678)

Q

其鼻

没其鼻于器中也 (1781)

气势

也自没气势 (3198)

钱

(只是自家) 没钱买得 (2886)

情理

都没情理 (1229)

去处

便都没去处了 (1746)

别没去处了 (133)

更没去处 (1866) (2369) (2375) (2526)

则没去处了 (2469)

R

人

没人 (201)

(便) 没人管 (1165)

人情

都没人情 (164)

人情底～

没人情底所为 (600)

一般没人情底学问 (2610)

## S

### 思量

是个没思量底 (91)

似个没思量底 (2438)

### 上载

便没上载 (1737)

### 甚～

也没甚意思 (1662)

### 十成

没十成 (496)

### 世

而没世不闻耶 (437)

如此没世不济事 (2919)

则没世穷年 (310)

### 事

(当得) 没事了 (1086)

便没事 (825) (1118)

便都没事 (1045) (2910)

### 是处

没个是处→个～

都没是处 (1469)

### 收杀

没收杀 (2224) (3321)

都没收杀 (682) (2649)

更没收杀 (682) (2748)

也没收杀 (682)

做来做去没收杀 (751) (751)

### 收煞

越没收煞 (3026)

## T

### 他～

便一齐没他长处 (2912)

### 讨处

没讨处 (2897)

也没讨处 (3069)

### 讨头处

都没讨头处 (1870)

更没讨头处 (3104)

### 头

(其话) 没头 (1249)

更没头没尾 (2961)

### 头脑

没头脑 (2973)

(文人之) 没头脑乃尔 (3248)

## W

### 尾

都是藏头没尾 (1127)

更没头没尾 (2961)

### 吾宁

没吾宁也 (1012) (2522) (2522)

### 物事

都没物事说得满 (2910)

## X

### 下许多

便都没下许多 (1690)

### 下面一载事

没下面一载事 (210)

### 下梢

(也只得) 个没下梢 (2734)

更没下梢 (2177)

下手商量处

更没下手商量处 (2844)

些～

没些虚伪不实 (1424)

都没些事了 (1174)

更没些私意小智在里 (1925)

些子～

没些子紧要做 (874)

没些子亏欠 (2926)

则更没些子属自家 (2862)

心性

也没心性 (979)

兴

(又自) 没兴了 (1387)

许多～

没许多事 (1341)

便没许多力量 (877)

却没许多节次 (1469)

Y

要紧

没要紧 (2616)

都没要紧 (3117)

也没要紧 (898)

要紧～

(本自) 没要紧事 (2613)

(如至) 没要紧职事 (1371)

要紧底～

(做) 没要紧底事 (2924)

没要紧底语言文字 (898)

一文钱

没一文钱 (674)

一些～

没一些热时 (1887)

意思

没意思 (2744) (2843) (2844) (3133)

没意思了 (47) (586)

到没意思 (1437)

也没意思 (2286)

亦没意思 (1512)

有没意思者 (2085)

意智

没意智 (3141)

Z

长进

没长进 (148)

只见没长进 (370)

这～

没这道理 (244)

没这几个卦画 (1934)

没这里 (3021)

没这人时 (1165)

没这仁了 (467)

没这说话 (1308)

便是没这书 (504)

都没这般滋味 (170)

却没这一句 (542)

也没这地 (1576)

元没这光底道理 (2423)

则没这身 (1280)

则便没这天地 (1576)

主张

没主张 (2661)

捉摸处

(是) 没捉摸处 (964)

著处

(直是) 没著处 (1066)

没著浑身处 (2441)

(都是) 没著身己处 (3275)

著落

(恐) 没著落 (566)

滋味

没滋味也 (2495)

(本学専任講師 中国語)